特別論説

情報処理最前線

大型汎用計算機は生き残れるか？

『ダウンサイジング』が話題となる昨今，これまで企業情報システムの中核として今日の情報化社会を構築してきた立役者である大型汎用計算機の今後の利用形態についての議論が盛んに行われています．それでは，ダウンサイジングは何を目的としているのでしょうか．もちろん，近年の企業活動基盤の急激な変化に対する情報システムの対応，すなわち，『エンドユーザ・コンピューティング』による使いやすさの向上も，その大きな目的の一つでしょう．しかし，なんと言っても，大多数の人たちはコストダウンの方法論としてダウンサイジングを捉えていると言えるでしょう．その傾向は，最近の景気の停滞と相まって，大きく加速されているようにも見えます．

ハードウェアの価格性能比の向上は目覚ましく，特に，パソコン，ワークステーションにおいては，年率 30～40% の向上を持続しています．これらの安いハードウェアとオープンな安いソフトウェアを中心として情報システムを構築することによって，コストダウンを図ろうとする流れは，きわめて自然であるように思われます．しかし，一方，ダウンサイジングを行った結果，情報システムはより複雑となり，運用コストも含めた総コストは逆に大きく増大したというような報告も多く見かけます．大型汎用計算機の今後の利用方法も含め，企業情報システムをいかに構築するべきかについて，大きな変革期の真っただ中にいると言えそうです．

そこで今回は，コンピュータシステムの実際のユーザと深いつながりを持つ第一人者の方々に，今後の技術動向を踏まえた上で，企業情報システムにおける，大型汎用計算機の今後の役割，および，利用形態について論じていただきました．

また，近年の企業活動基盤の急激な変化に対して，業務方法を再適合させようといういわゆる『ビジネス・プロセス・リエンジニアリング』の流れ，その流れの中にあって『オープン・システム』の必要性，および重要性についても論じていただきました．☆

ライトサイジングへの道†

中　島　丈　夫††

1. はじめに

今まで大型汎用計算機（以下大型汎用機と略す）を中心に着実に企業システムを作り上げてきた各企業のシステム部門の方々が，自部門の将来像も含めて根本からシステム基盤の見直しを迫られています．これからも大型汎用機でいけるのか，それとも PC/WS にくら替えすべきなのか，するとすればいつどのようにやればよいのか．

いわゆる『ダウンサイジング』の選択という圧力です．この言葉ほどコンピュータ用語で幅広く世の中に受け入れられたものはありません．過去，多くの流行語がその時々に話題にのぼることはありましたが，ダウンサイジングは計算機業界を震撼させその構造を大きく変化させた点で超ウルトラ級のキーワードになりました．

企業トップの方々にも初めて計算機用語で理解できた言葉としてすこぶる評判が良いようです．『分かりやすい』と．ちょうど東側諸国が雪崩をうって『民主主義』へと政治構造を変えていった姿もオーバラップして，ダウンサイジングは時代の要求として理解されるに至っています．

ここではこのダウンサイジング論を検証することによって大型汎用機の将来像を探ってみます．

実はダウンサイジングという言葉はかなり曖昧

---

† The Way to Rightsizing by Takeo NAKAJIMA (Systems Laboratory, IBM Japan).

†† 日本アイ・ビー・エム(株)SE 研究所

☆ 清水茂則（日本アイ・ビー・エム(株)）